



カルチャーたかつ TAKATSU

発行 高津区地域教育会議
編集 高津区地域教育会議
事務局 広報・情報委員会
〒213-0001 高津区溝口1-4-1
ノクティ2 高津市民館内
電話 044-814-7603 FAX044-833-8175

キーパーソンが語る 「地域教育会議と私」

「コロナ禍により、令和2年度の私たちの活動は思うに任せない状況となりました。イベントの中止や活動の自粛により、広報誌で情宣するコンテンツがありません。この際、従来とは違う広報誌を作ろう」と、これまで地域教育会議で活躍いただいた方に原稿を依頼してこれまでの活動を振り返るとともに、将来を見通す一助にすることをしました。

新型コロナウイルス感染症が拡散し出す前、令和2年2月の全体会では「地域教育会議誕生の背景である荒れた学校や少年事件の多発から40年が経過、その課題は解決できたのか、当時の枠組みで予想していなかった時代変化も起きていないか、これからの地域教育会議はどのようになればいいのか、そのようなテーマで話し合いをしました。その時の話し合いの続きのような、良い原稿が集まりました。」

〈編集長 角田〉

中学生会議、区民会議、地域教育会議ハンドブックの作成

住民委員(元議長)新井久三



私が地域教育会議に本格的に関わるようになったのは、第5期(平成13〜14年)からです。それまでは、地域の子どもの活動に専念しておりました。当時子ども会長をしていた西田氏に協力を依頼され、子どもの健全育成に必要な活動であると認識し関わってまいりました。そして、氏の議長退任を受け、6期・7期(平成15〜18年)議長の大役を大勢の委員の皆様のご協力のお蔭で無事務めることが出来ました。改めて御礼を申し上げます。それ以来様々な活動を行って参りましたが、その中で特に記憶に残っている3つのことを述べさせていただきます。

1 中学生会議

地域教育会議発足以来、「教育を語るつどい」、「中学生の声を聴くつどい」、「子ども会議」を主に開催してまいりましたが、その「中学生の声を聴くつどい」を開催していく上で、もっ

と多様な中学生の声を反映する方法はないだろうかと委員と検討を行った結果、各学校の生徒会に参加してもらったら様々な生徒たちの主張や課題を直接聞くことが出来るのでは、との結論に至り、各学校の理解と協力を得て、「中学生会議」を立ち上げることが出来ました。

これは私達が期待した以上の効果がありました。生徒会は私達大人が知らない多量の情報を持っていることと、役員は改選になるがその時々ちゃんと引き継ぎが出来ているため、継続的な議論の展開が出来るようになり、多くの様々な主張や課題を吸い上げることが出来たのです。

2 区民会議

平成17年、川崎市は市民自治のあり方の全面的な見直しの中で、区を構成するさまざまな団体、組織、有識者、区民代表(公募)が一堂に会し、区民や区が抱える課題を調査・提言を行うための組織「区民会議」を立ち上げることになり、委員の選考に入りました。

その当時の高津市民館長は、地域教育会議こそ地域の諸問題、特に教育・子育て・生涯学習に発足当初か

ら取り組んでおり、委員になるべきと積極的に推薦していただき、全市の中でも数少ない地域教育会議からの委員選出が実現しました。そして第1期のテーマの一つとして、当時大きな問題となっていた溝口駅周辺の駐車場問題に取り組み、JR東日本や東急電鉄に陳情を行い、区と協働して増設に努めました。

3 「ハンドブック」の作成

平成8年に全行政区で地域教育会議が活動を開始して10年が経過する頃に差し掛かると、活動の核心的な存在たるべき住民委員の参加が芳しくない状態が続く中で、事業のマンネリ化に対する意見や、発足当初からの社会環境の変化に対応出来ていないのではないか、との意見が相次いで聞かれるようになり、これからの地域教育会議の活動のあり方を根本的に検討すべきとの意見が川崎市地域教育会議推進協議会で高まり、黒川青少年野外活動センターでの合宿を含め、一年間に及ぶ検討を重ねて平成20年3月、「川崎の地域教育会議ハンドブック」(サブタイトル:市民自治の教育への取り組みをめざして)を発行し、現委員にこの会議が発足した意義を再確認していただくと共に、地域住民や各団体及び行政に積極的に理解と協力と参加を呼びかけていくことになりました。

議長を退任して10年以上経過しましたが、私以降の議長さんは優秀で一生懸命様々な課題に取り組んでいただいております。これからは社会環境は弛まなく変化していくと思えますがそれに対応した地域の教育力の向上にご尽力お願いします。私も微力ながら応援して参る所存です。



高津区子ども会連合会会長、川崎市子ども会連盟連盟長を歴任。
■本誌の制作中に、新井さんの訃報が飛び込んできました。突然の悲報に茫然としました。ご冥福をお祈りします(11月13日逝去)。この原稿は昨年の8月末にいただいたものであります。

地域教育会議の魅力

前議長 金俊一郎



地域教育会議との関わりが長い。PTAは子どもが卒業すればそれで終わり。地域の町会も10年もいれば自分の関わりの限界も見えてきて、まあそろそろいいかなと思いは始めるようになる。30年程前、高津区PTA協議会に関わったことから、区の地域教育会議の委員になった。中学校区の地域教育会議は橘中学校区のみで、他の中学校区はまだ出来ておらず、高津中学校区に関わるようになるのは少し後のことになる。

私にとってこの組織の役割は、学校や子どもたちを取り巻く社会を変えること、あるいは子どもたちが当事者としての学校づくりをすることに何か関われないか、ということ。この会議の委員構成は、学校教育や社会教育の関係団体及び町会と思いのある住民委員などであり、地域全体を意識していることです。日本国中見回してもこのような組織は見当たりません。そんな地域教育会議に入ったことで、私は市民館をはじめ、その他の関係の組織と関わり、それだけたくさんの人とつながりが持てるようになっていきました。

議長時代に一番重視したことは、委員一人ひとりを大事にすること。会議は出来るだけたくさんの人に話してもら

うように考えました。市民館の方々のふれあいは、自分自身の時代時代を作っていた気がします。

子ども会議は小学校校長会に、中学生会議は中学校校長会に大変お世話になりました。東高津小学校の道田校長や東高津中学校の後藤・樋口両校長先生には、特に応援していただきました。校長が変わると学校が変わるとよく言われますが協力関係が良好になると、会議の質も上がります。

ある朝、犬の散歩で東高津小学校を通りかかった時、子どもたちの声が学校から聞こえてきました。朝礼台から子ども委員たちが全校生徒に子ども会議の報告をしているのです。なんと子ども委員が朝を迎えられました。中学生会議では、五校の中学校の生徒たちが自分たちの思う楽しい学校、行きたい学校、居場所としての学校について話し合ったことが特に印象深かったです。なかなか雰囲気の中でも、一人ひとりの真剣なまなざしは、私自身に納得の充実感をもたらしました。

名前をあげたら紙面が足りないのでは止めますが、星さんを始めた皆さんの仲間たちがこの会議を支えてきました。当時の中学生の前川君が、今や中学生会議はもとより会議全体の核になってきつつあることは感無量です。角田議長はじめといたくさんの思いのある人たちがいることが、私にとっての大きな誇りです。今後も学校と地域のより良い結びつきなどをテーマに議論を進めていってほしいと思います。

平成19年、金さんが議長になると同時に私は事務局長となり、その後10年間コンビを組みます。その際に、この会議の事務局的な様々なドキュメントを私に引き継いでくれたのは、新井元議長でした。何通ものメールで...

校長先生方と相談し意見をいただき、それまでの「中学生の声を聴くつどい」という名称を「J.H.S. コミュニケーションin高津」と変更して、生徒が様々な役割で携わる形にしました。また、生徒たちは部活動や塾等で大変に忙しいこともあり、中学生会議の会場を高津市民館から各中学校へと変更して実施することになりました。会場校となった生徒会役員は、学校案内を楽しく行うに努めました。中学生会議委員会の活動の中で印象に残ることは、平成23年3月、初回の「J.H.S. コミュニケーションin高津」開催日の前日に東日本大震災が発生し、中止とせざるを得なかったこと。中学生会議委員会の生徒達は、他校との意見交換が必要と、その年の8月に、東橋中学校の前島校長先生をはじめとする他校の先生方のご理解をいただき、東橋中学校で開催することができました。この時は、総合体育祭の開会式の直後で、参加人数は少なかつたですが、活発な意見交換が行えたように感じました。金議長と開催の説明等で、各校に伺ったことも楽しい思い出です。今、新型コロナウイルスにより各活動やイベント等が自粛となっており、大変だと思いますが、まずは、皆さま、ご自愛いただき、今後の活動に備えていただければと存じます。

星さんは東橋中学校区の議長で行政に参加、金議長の下で副議長をつとめました。その後、横浜市へと転出されましたが「住民サポーター」として私たちの活動を支援していただきました。住民サポーターは高津区民だけでなく、高津区で市民活動の経験があれば住民委員と同様に参加できるという高津区の独自制度です。役員になれない等の制限はありません。

次は、中学校区の活動について、最初に試行された中学校区3校の内の一つである橋中学校区の澁谷議長が紹介してくれます。

橋中学校区地域教育会議の今までの取り組みと今後の活動

橋中学校区地域教育会議



橋中学校区地域教育会議（以降、「橋中区地教」）はあの金属バット事件のあった1980年の学校や家庭が荒れ、少年事件が多発したことをきっかけに平成2年（1990年）に地域教育会議の試行の委嘱を受け、他中学校2校とともに始まりました。金属バット事件があった1980年は私が18歳のときで、私たちの世代に起きた事件でありすなわち当事者だったので。たしかに、今思えば学校では友人が暴走族の話をし、アルバイト先の先輩からも集話の話をよく聞かれました。当時公立高校はオートバイの免許取得にはあまりうるさく無く、クラスの殆どの男子がバイクの免許を持っていました。交通違反など誰しも一度は経験し、自慢しあったりもしていました。その当時やっていたことがきっかけで、この地域教育会議が発足したのだと思うと、ちょっと複雑な気持ちになります。でもそれを経験した人間が携わることで、少しでも恩返しが出来ればとも思っております。さて、私たち橋中区地教ですが、試行から31年目を迎えました。そして私自身は、息子が14歳（中二）の時にPTA会長就任と同時に副議長としてこの会に携わり、その息子も32歳です。何と18

地域への恩返し

元住民委員 仲村美津子



私が高津区地域教育会議の住民委員のメンバーになったのは、20年程前になるでしょうか。末っ子が中学校を卒業し、私自身もPTAを卒業することにいたしました。その時に既に有った「地域教育会議」での活動を一緒にしようかと前議長の金さんにお声かけいただきました。確か、「地域教育会議に期待すること」というテーマでの作文が課題だったような記憶があります。

私は夫の転勤で川崎に引っ越してきました。今では生まれ育った故郷の居住よりも長く、40年以上この地で暮らすこととなりました。こちらでは、親・親戚もいないので子育てほかの日々の生活でも戸惑うことが多くて、ずいぶん近所の方に助けていただきました。子育て中はその頃住んでいた社宅の方や、今というママ友やPTAのお仲間、子ども会の役員さんなど大勢の方にお世話になりました。その時の経験から、子どもたちの成長には親だけでなく、親以外のたくさんの大人たちのかかわりの中で、親子ともども（共育）育っていくのだと痛感いたしました。PTAの卒業とともに、地域との関係が断たれてしまうのは寂しいし、ここから地域への恩返しができるかもしれないのにもつたないことだと、そのようなことを課題の作文に書いたように思います。高津区に長く住んでいても、区内のことを意外と知らないこと、PTAと子ども会以外の方も子どもたちの成長に深く関わっていただいていることを知り、いろいろな方のご意見を聞く機会をいた

年間もこの会に在籍しており、今更ながらびっくりしております。この橋中区地教の強みは何でしょう。それは運営委員会に出席してくださる方が多いことです。住民委員をはじめ地域団体の代表の方々、そして各小中学校のPTA会長、こ文の館長。そして何より普段忙しくされている校長先生はじめ担当の先生方もたくさん出席していただいています。中でもたくさんの方々に参加して戴いている行事は、毎年夏休み前に行われる拡大地区懇談会です。これは橋中区の橋小、末長小、新作小それぞれの体育館で行われ、各校100人〜200人超の参加者があります。対象は保護者、地域住民、小・中学校の先生方です。主旨はこの地区懇談会を通して保護者と地域住民と先生方が顔見知りになり、夏休みに子ども達が事件や事故に巻き込まれないように三者が共に見守ろうということで開催されます。それはまさに学校と家庭と地域が繋がる、いきつけとなる会だと思っています。また、この他にも中学生と小学生が一緒に地域のことなどを話し合う夏休み子ども会議。地域の方や学校の先生が講師となり小中学生と父母に茶道やお箸作りやXマスリース作りなどを教える文化教室。

中学校の部活の生徒が小学生や地域の方にスポーツの指導をするスポーツ教室など、さまざまなお事を行っており、どの行事も100人前後の参加者があり



令和元年度子ども会議。テーマは『地域の方々と関わりを持とう！』

盛況な行事となっております。今、あの学校が荒れ家庭が荒れてできた地域教育会議は終わりを告げようとしています。今の時代に合った運営の仕方を取り組みやネーミングも確かにあると思います。ただし、今までやってきたどの行事も学校・家庭・地域を繋ぐいい行事だと思っております。今までのよかつた点は出来るだけ残り新しく変えるところは時代に合わせて変えていき、今以上にたくさんの方が参加できる会になればと願っております。そしてこれから変わっていく地域教育会議を私自身、もう少しだけお手伝いできればと思っています。

中学生会議の思い出

元住民委員サポーター 星幹夫



私が高津区地域教育会議に参加したのは、平成19年に東橋中学校区地域教育会議議長として中学生委員会の活動に参加するようになった時です。平成20年より、中学生会議委員会の委員長として高津区内5中学校の生徒会役員と連携を取ることで「中学生の声を聴くつどい」に向け年間数回の中学生会議の調整と準備をして、会議を実施しました。平成21年には、金議長と中学生会議をもっと生徒が主体的に会議に参加して意見交換ができるように、各中学校の

地域教育会議に関わり続ける理由 会計 前川友太

私は平成18年度の子ども会議実行委員として、高津区子ども会議の事務局をやらせており、今の子ども会議の活動の基礎を作られたように思います。



その日は、僕が通っていた小学校のバザーが開催されていた。食券を全て商品に換えることができ、友達とも別れて、そろそろ家に帰ろうかと思っていた頃、当時あこがれていた6年生の先輩に会った。「ちょうどよかった！これから暇？溝の口と一緒に行って、子ども会議に行こうよ！」と先輩に言われ、私は二つ返事で行くことを決めた。この「子ども会議」に行ったことが、地域教育会議との最初の出会いであった。運命的な出会いを果たしたが、その後2年間は参加しなかった。では、この2年間何をしていたか？先輩と同じ6年生になると、橋地区子ども会が主催している子どもリーダー研修会に参加し、他の学校の同級生と仲良くなった。八ヶ岳へのキャンプなどを通して、子ども会活動が楽しくなった僕は、中学生になるとジュニアリーダーという子ども会の中の高生リーダーとなった。そのジュニアリーダーの責任者は、子ども会から地域教育会議に参加(団体選出委員)されていた水野さんであった。「子ども会議」との再会は、水野さんからの一言だった。「友太、子ども会議もやってみないか？」「はい！」またまた、二つ返事であった。



ステージに並んだ平成19年度の子ども会議実行委員たち。実行委員だけでこんなに大勢いた時期があった！

こうして2年間のブランクを経て、再び「子ども会議」と再会した僕は「より良い高津区」を目指して、子ども会議の実行委員長となった。「より良い高津区」を目指すために、子ども会議で話し合ったことを区長さんに伝えたいと思い、現在まで続く区長さんへの報告会を子ども委員時代に実現できた。さらに、中学校では生徒会役員となり、中学生会議の活動も始まった。その後も、(地教の)役員さんとの付き合いが続き、約5年前から住民委員として地域教育会議の正式なメンバーとなった。

最年少委員でありながらその歩みは、もう17年となる。現在は役員となり、高津区地域教育会議の運営にも携わることになった。私の歩みと同時に、学校や地域、そして家庭はそれぞれに変化をしてきたが、地域教育会議はその変化に対応できているとは言えない状況である。「より良い高津区」を目指した13歳のころの想いは、今も変わることはない。これが関わり続けている理由であり、今後は高津区地域教育会議の活性化を目指していきたい。



地域教育会議の経験は、前川くんも私もそんなに変わらない？
子ども会議の子ども実行委員長から大人実行委員長になり、今は当会議の役員の一翼を担って来ています。

子ども会議も、生涯学習も…

住民委員 徳武道雄

私が高津区地域教育会議に参加したのは、平成5年の第1期からです。



当時私は、地区の子どもの会活動を中心に仲間と活動をしていました。当時高津区の子どもの会会長である西田さんに勧められて入会しました。当時宮前区の金属バット事件以来、川崎市においてこのような悲惨なことが起こらないように、地域で学区を見守るためにこの地域教育会議が発足して、西田会長もその中心者であり子ども会の仲間も率先して参加しました。

いろいろな経験をさせてもらいましたが、何件か記憶に残っていることを書きたいと思います。現在は「子ども会議」が毎年活発に行われていますが、初めての会議は高津区役所の1階ロビーにおい

て、日曜日だったと思います。区長をはじめ、各部署の代表である部長さんが勢揃いして行われました。質問者である子どもたちは、各子ども会より50人ほどが集まり、5班に分かれ質問内容を全員で話し合い、順番に代表が質問をしました。質問について、その場で返答できないものもあり、回答者が大変困り、宿題として後日連絡するという場面もありました。



専門家の説明を聞いてまち歩き(平成24年7月)。

また、平成23年度に「プロジェクト委員会」が発足して、子どもの教育だけではなく、生涯学習の観点からも多方面に渡って事業を行いました。まず、役員同士の学習として高津区内の歴史散歩を行いました。教育委員会から文化財課の服部先生に案内人としておいでいただき、「高津の散歩道」子ども・千年コース」を半日かけて、専門的立場から詳しく説明していただきました。子母口貝塚、橘樹神社、富士見台古墳、特に7世紀末創建と伝えられる関東屈指の古刹である「影向寺」では、住職の計らいで本堂の薬師堂内部にある重要文化財である木造薬師如来等を特別に拝観できました。

そのほか、子ども会議では、私も入会していた河川愛護団体「二ヶ領用水ウォッチング・フォーラム」の手伝いとして、マジックハンドを使用して川の清掃をしたことも懐かしく思い出されます。



子ども会議とシニアの方々とのコラボレーション。

14期まで活動できたのも、仲間との交流を大事にし、また健康に恵まれたからです。残りの任期までは楽しませていただきます。



子ども会その他、まちづくり協議会でも活躍。地域教育会議では子どもの育ちに関わる活動をはじめ、まさしく生涯学習を体現されていると感じます。

3つのハートは学校・家庭・地域の連携を表現しています。

TAKATSU

【編集後記】

カルチャーたかつ第70号をお届けします。
コロナ禍の中で迎えた新年。これまでにない年越しになりました。

巻頭のコラムにもコメントいただきましたが、元議長で住民委員の新井久三様が昨年11月13日、72歳でご逝去されました。今号の企画は昨年夏に立案したもので、新井様には8月下旬に原稿をいただいております。地域教育会議を「これからも応援」するとの言葉もありました。誠に残念でなりません。これまでのご功績を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

今号は、昨年の秋に発行しようとしていたのですが、次の事情により発行時期を決めかねていました。
カルチャーたかつの町会・自治会宛配布は、「かわさき市政

だより」を行政が各町会・自治会に配布するのに相乗りしていただきました。各町会・自治会では、市政だよりと一緒に届いた書類を掲示や回覧用に帳合いです。その作業が「三密」になるとして、市政だよりは5月1日号から8月1日号まで発行休止となりました。その後、9月に再開されますが、配布は新聞折込みとなり、さらに12月から「1日号」は業者によるポスティング、「21日号」は引続き新聞折込みとなりました。

地域教育会議の予算では新聞折込み代やポスティング代は賄えず、町会・自治会へ広く配布する手段がなくなってしまいました。

今回は「高津市民館だより」の配架先や学校便で送付できる先を中心に配布することとし、年明けの発行としました。

ここ十数年間の私たちの活動を振り返ることができる内容になったと思います。地域教育会議の活動には、担っていただけの人をうまく繋いでいく必要があるのだな、とも感じました。

新型コロナウイルス拡大が収まり、これまでと同様に、地域で子どもたちや仲間たちと集えるようになることを祈って。



議長(広報情報委員長) 角田 仁

「地域教育会議」は、川崎市の行政区と中学校区に設置されている教育力向上に向けて活動している組織です。高津区地域教育会議は、高津区の市民(住民委員)と区内の関係諸団体や学校・行政関係機関からの選出委員とで、高津市民館を活動拠点として様々な活動を行っています。